

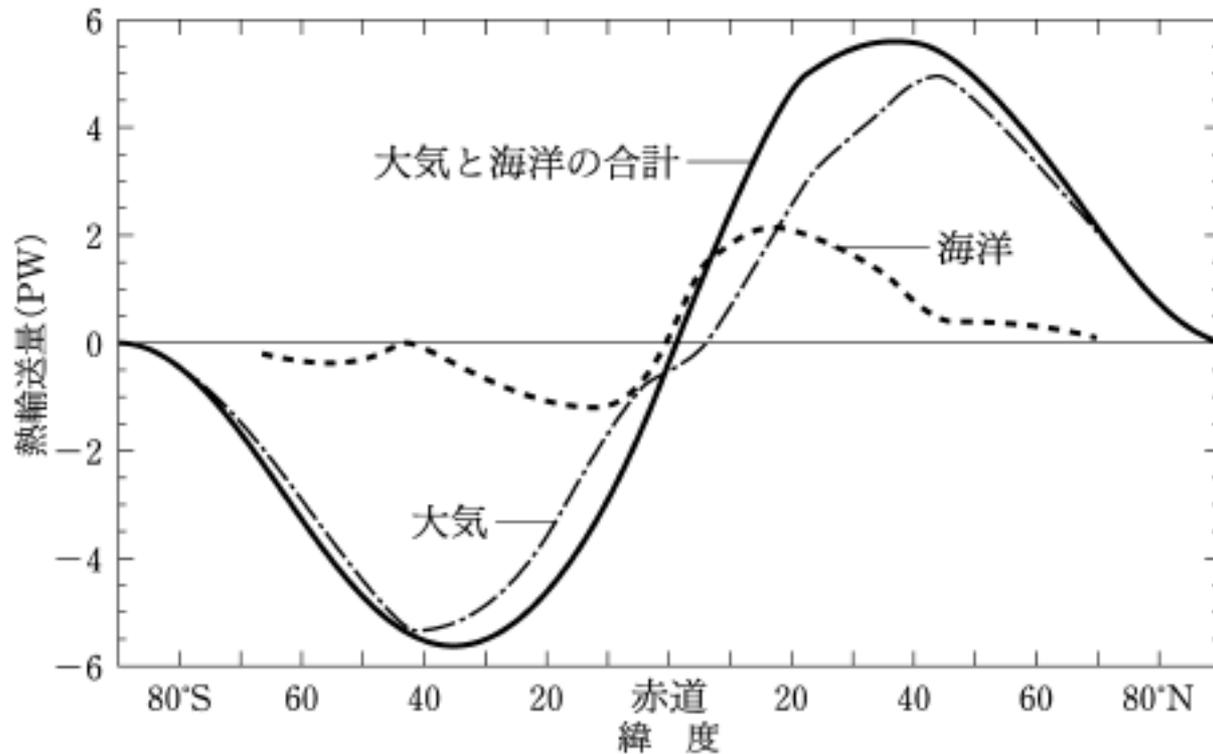
地球惑星科学 II

第6回

2021年11月18日

今日のテーマ

- 海の流れはどのように生じるか？
- 参照：地球惑星科学入門23章、24章、25章



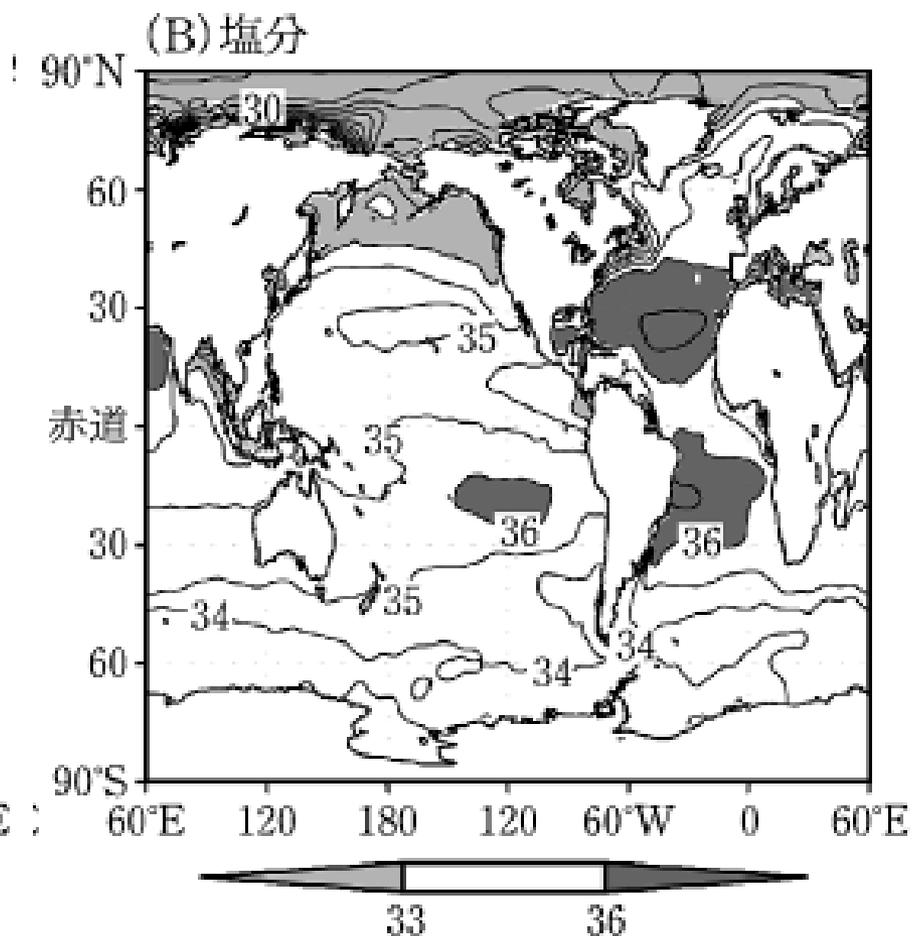
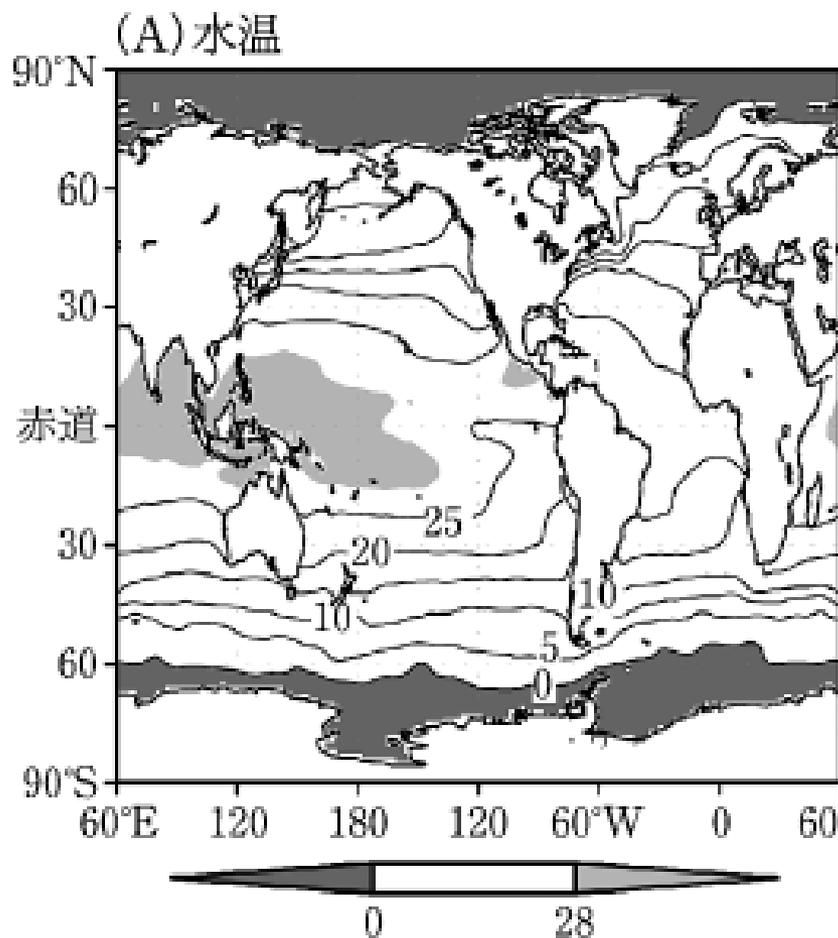
海水の量・組成

- 海洋の質量
 - 海洋: 10^{21} kg (大気: 10^{18} kg)
- 海洋の組成

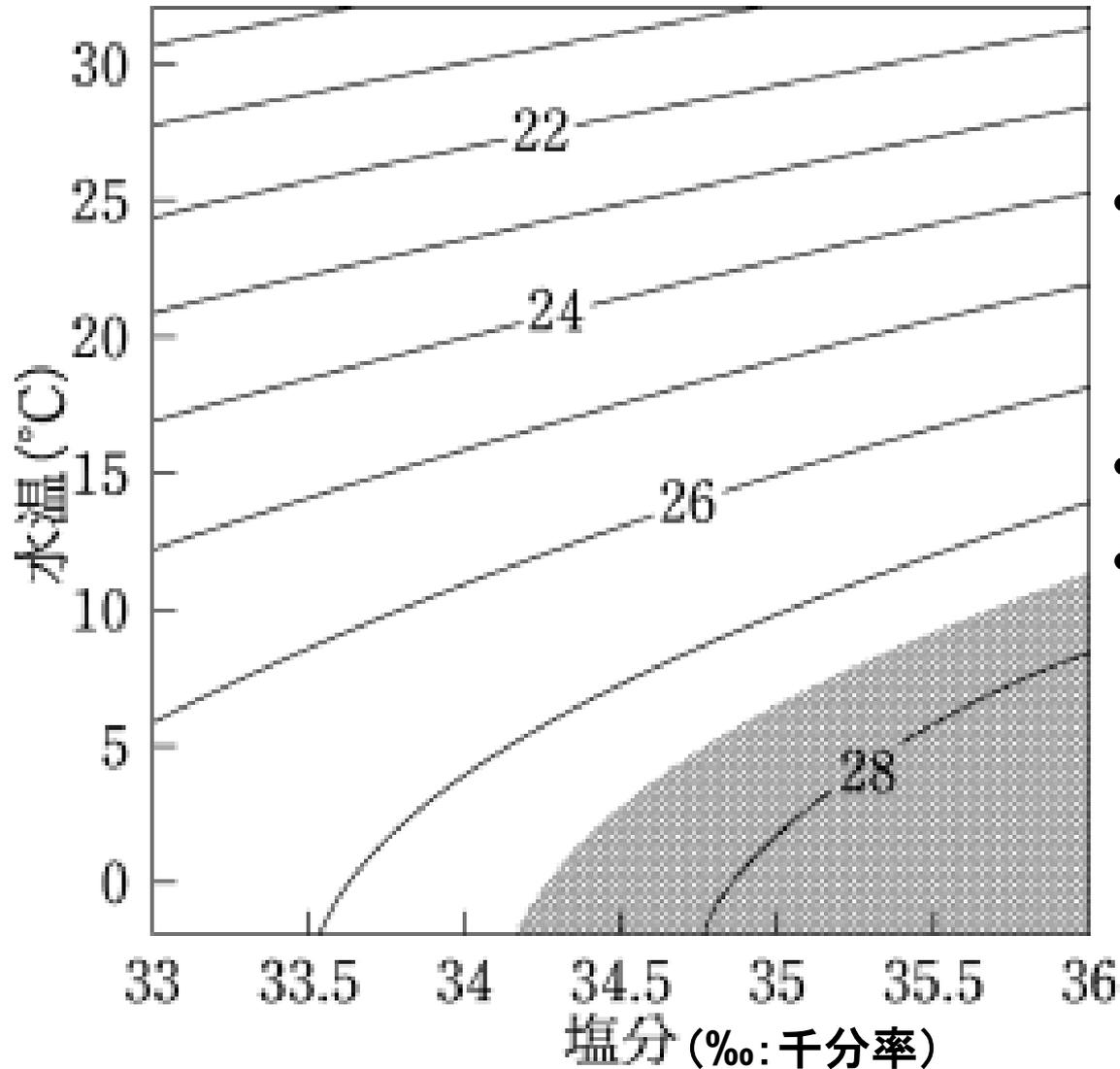
表 23.2 海水の平均化学組成。単位は $g\ kg^{-1}$ である。

陽イオン		陰イオン	
Na^+	10.773	Cl^-	19.344
Mg^{2+}	1.294	SO_4^{2-}	2.712
Ca^{2+}	0.412	HCO_3^-	0.142
K^+	0.399	Br^-	0.0674

海面水温・海面塩分

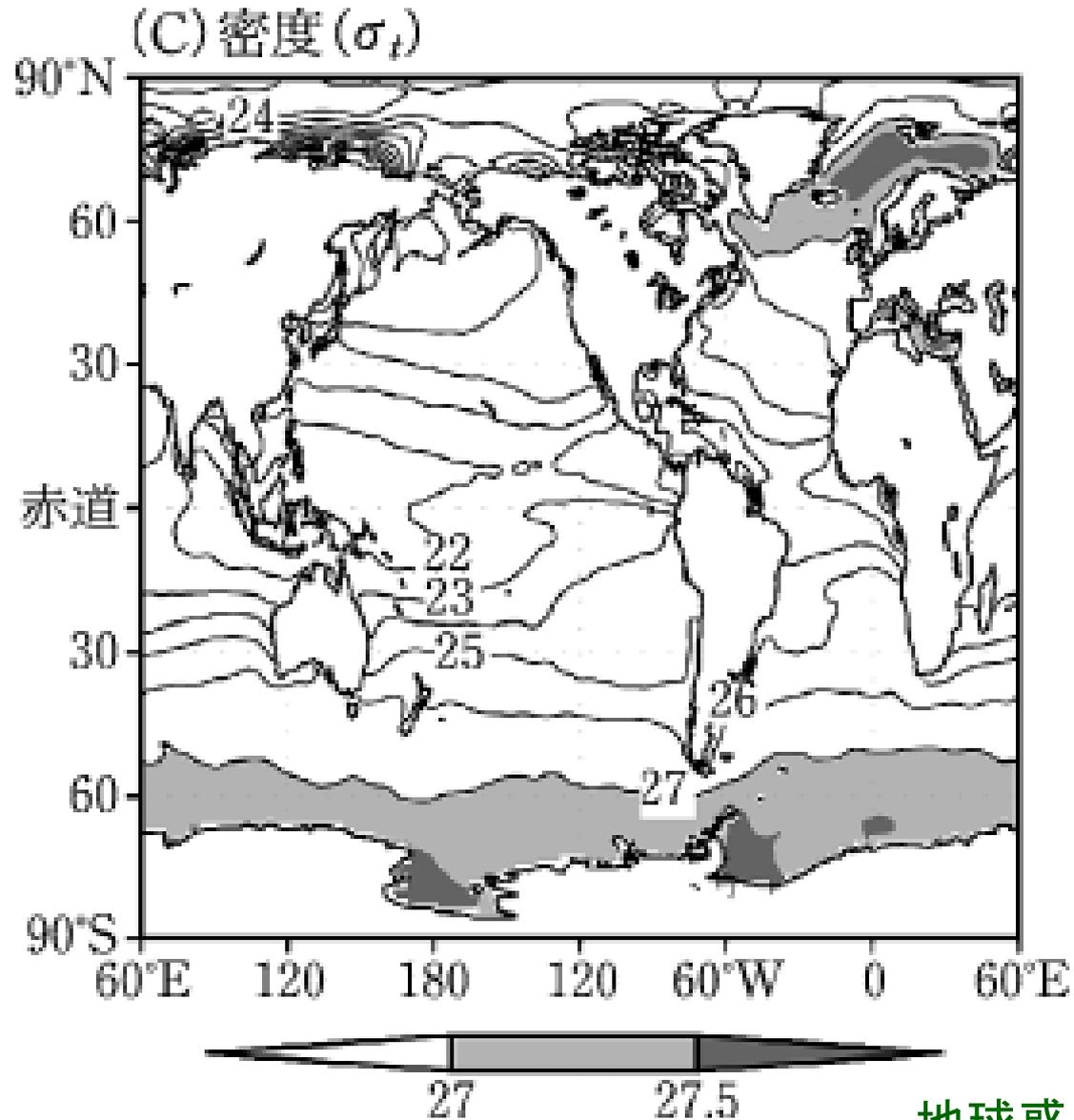


海水の密度



- 図に描かれているのは
(密度-1000)kg/m³
- 高塩分で高密度
- 低水温で高密度
(0°C付近以外)

海面の密度分布



海洋の鉛直構造

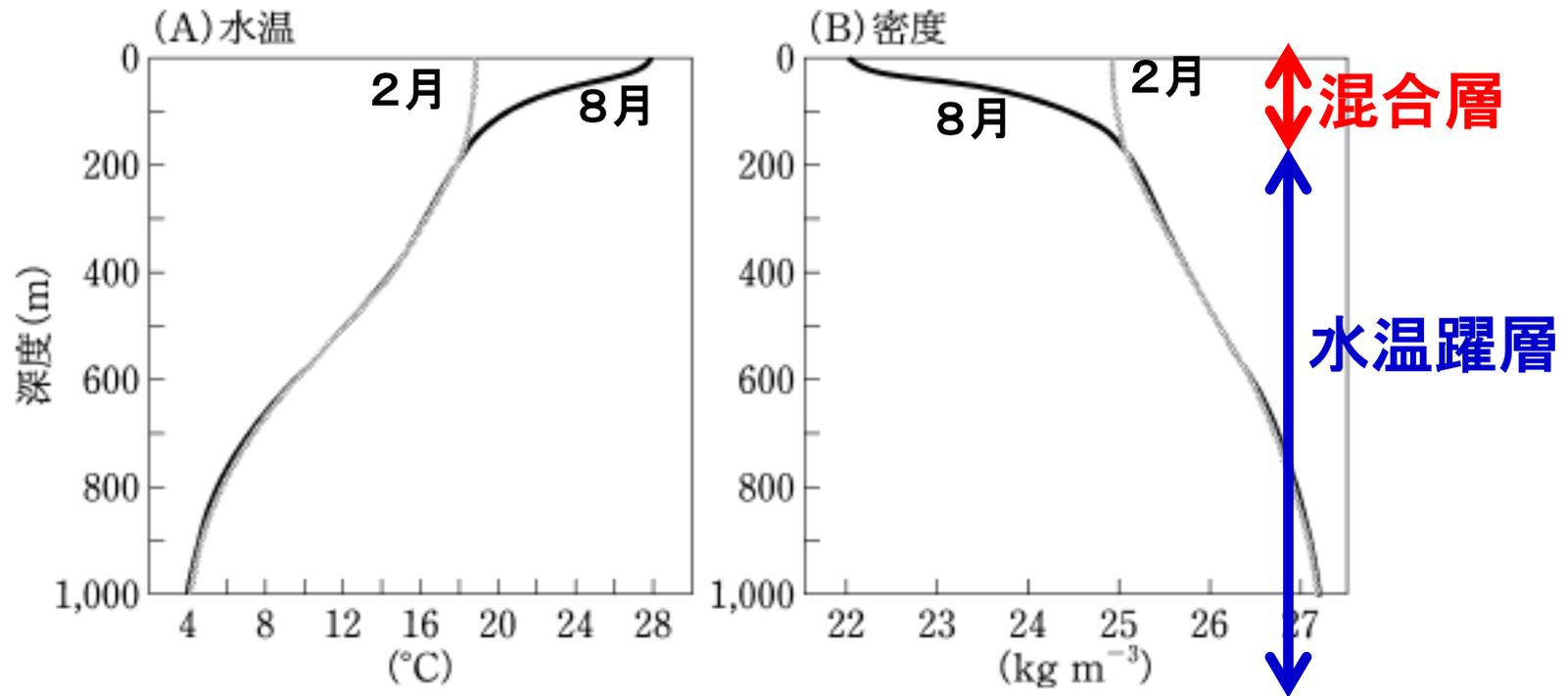
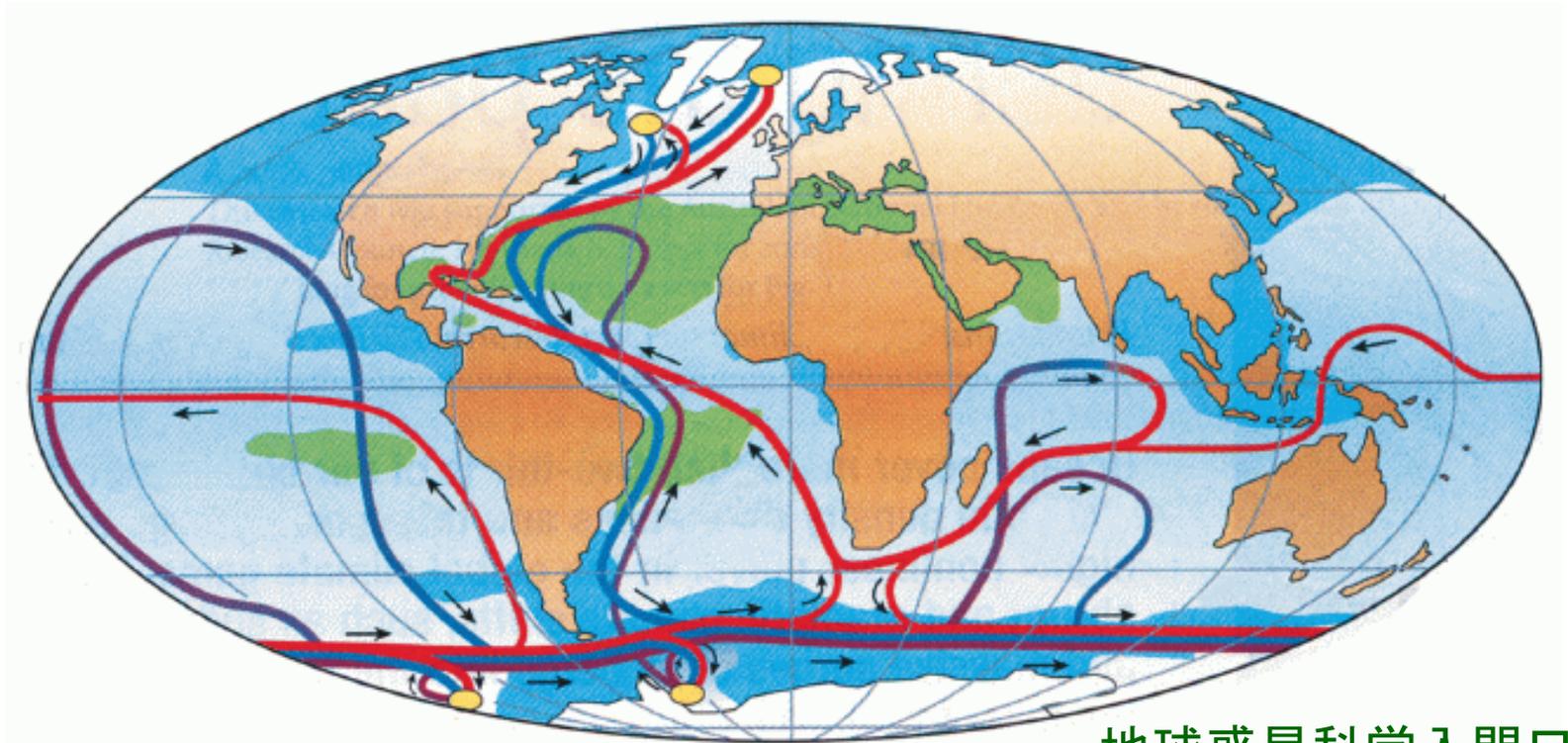


図 23.2 日本南方(30°N, 140°E)での、2月(灰色線)と8月(黒線)における平均的な(A)水温と(B)密度(σ_t)の鉛直分布

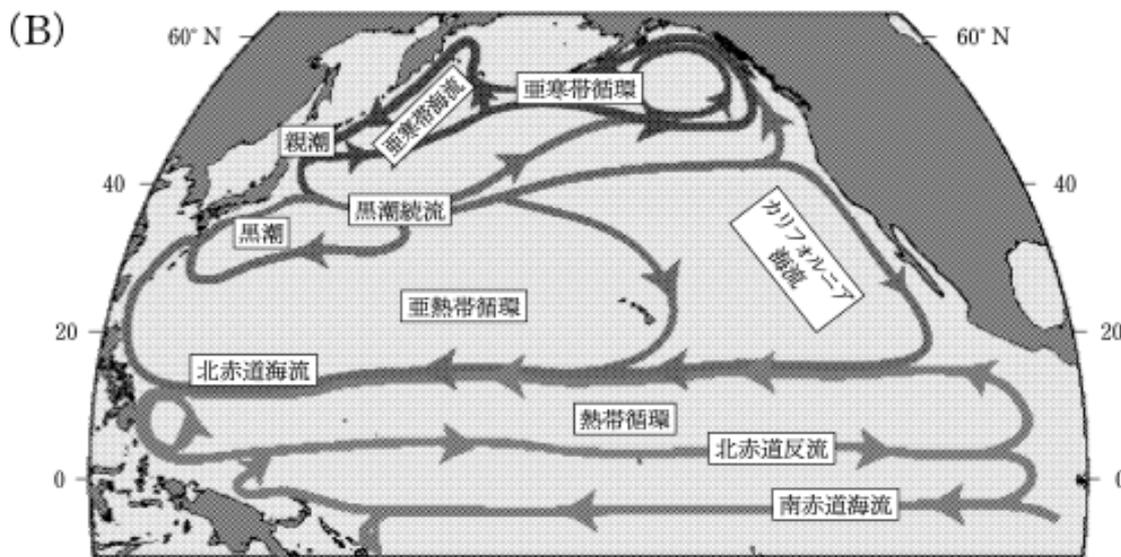
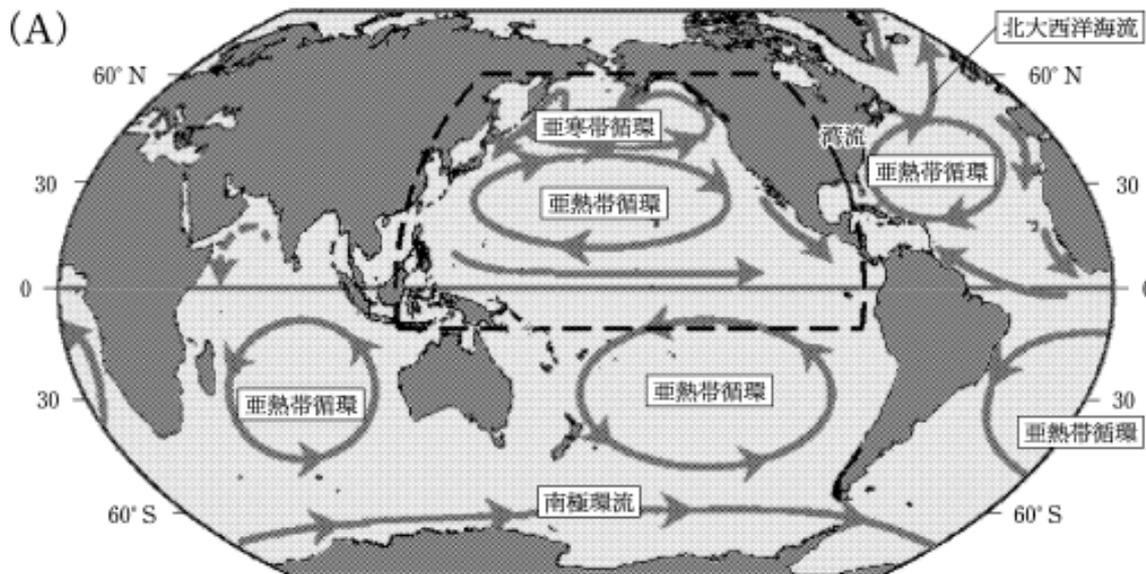
海水の大循環



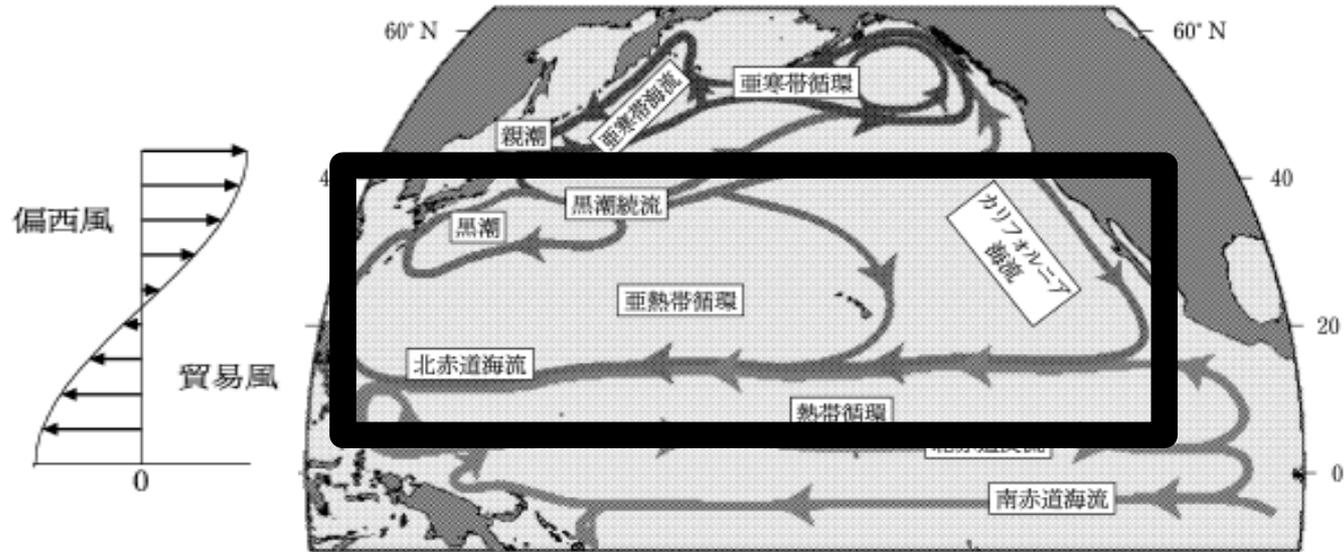
地球惑星科学入門口絵20

- ブロッカーのコンベヤーベルト
- 南極大陸周辺とグリーンランド沖で沈み込む
- 深層の水は再び表面に湧き上がる(湧昇)

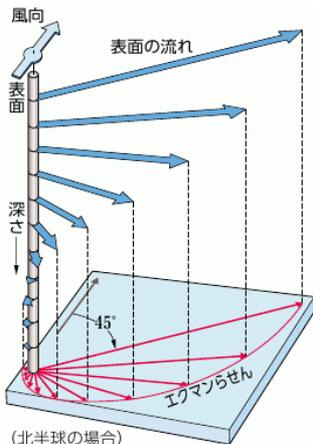
海洋の表層の循環：風成循環



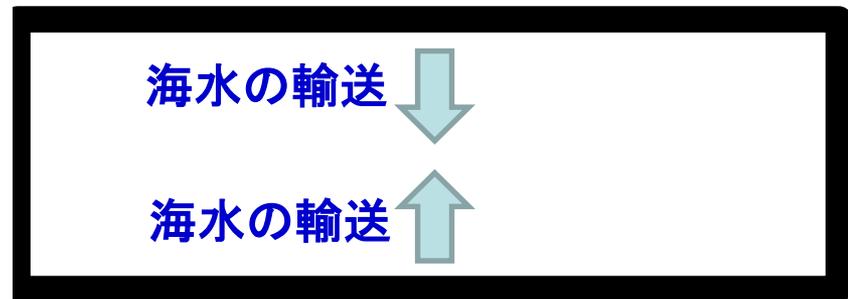
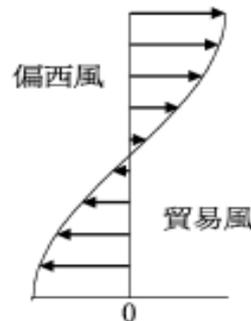
風成循環の成因：海面高度差の形成



エクマン吹送流

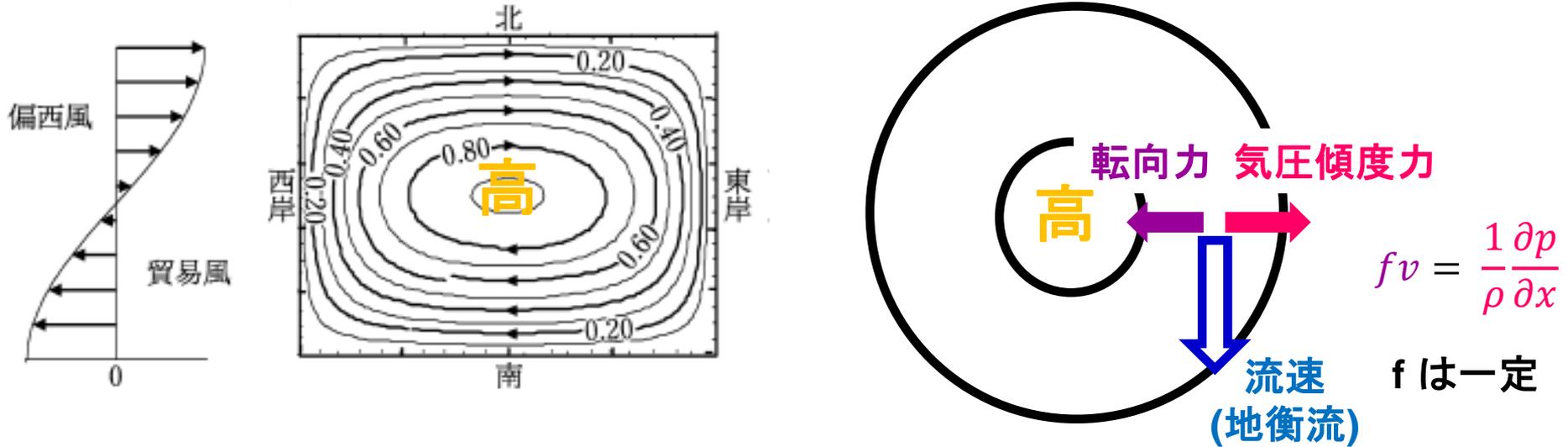


エクマン層内で平均すると風に対して直角右方向(北半球)への輸送

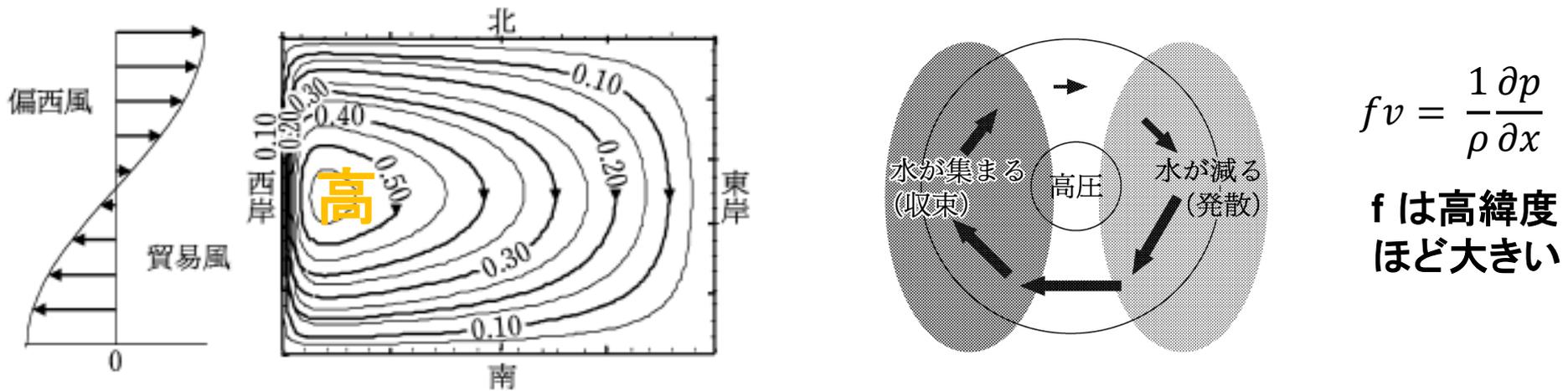


風成循環の成因：地衡流

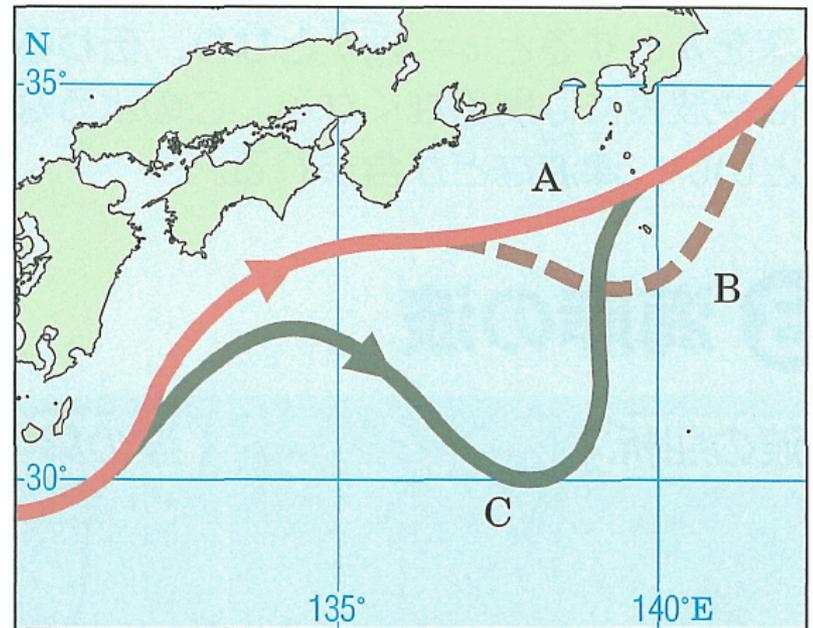
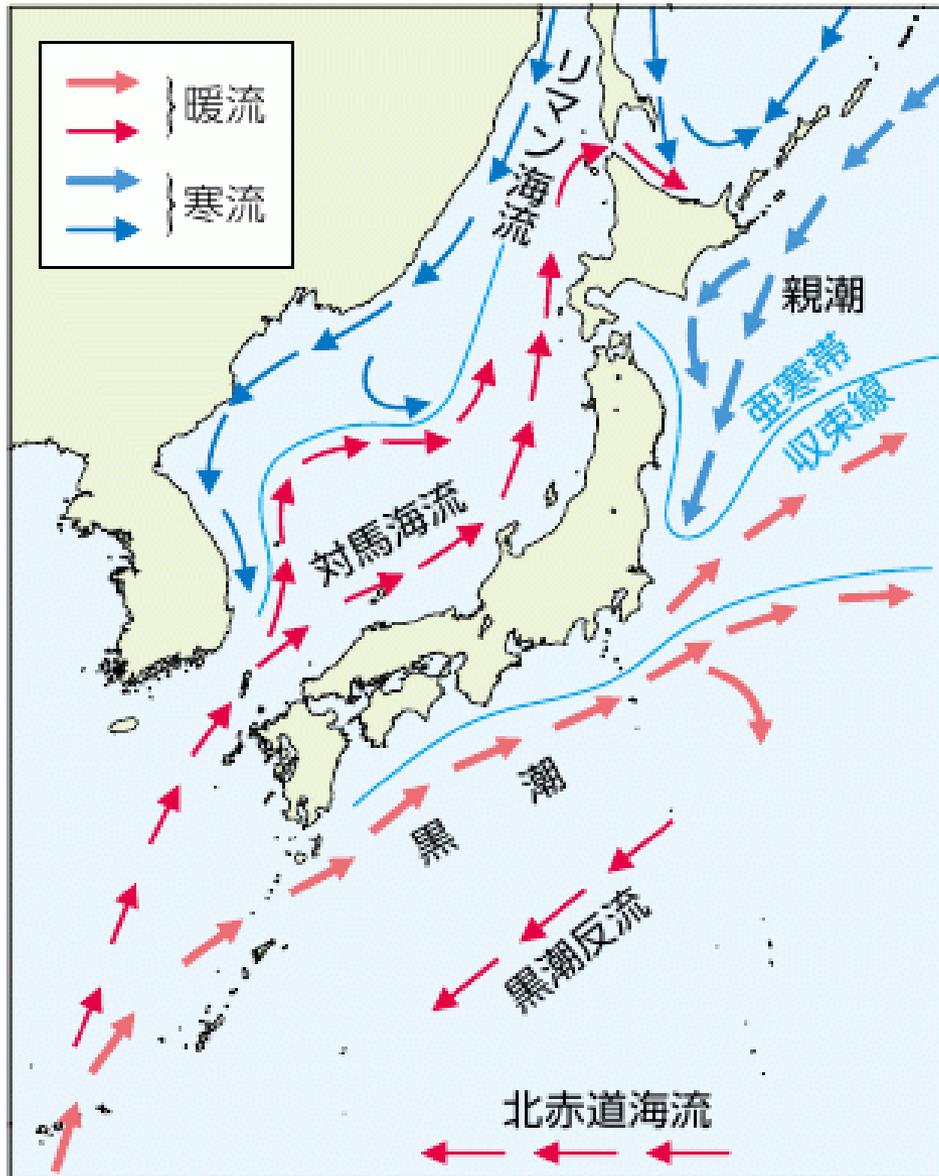
回転効果の緯度変化が無い場合(回転平面上の場合)



回転効果の緯度変化が有る場合(回転球面上の場合)



日本付近の海流

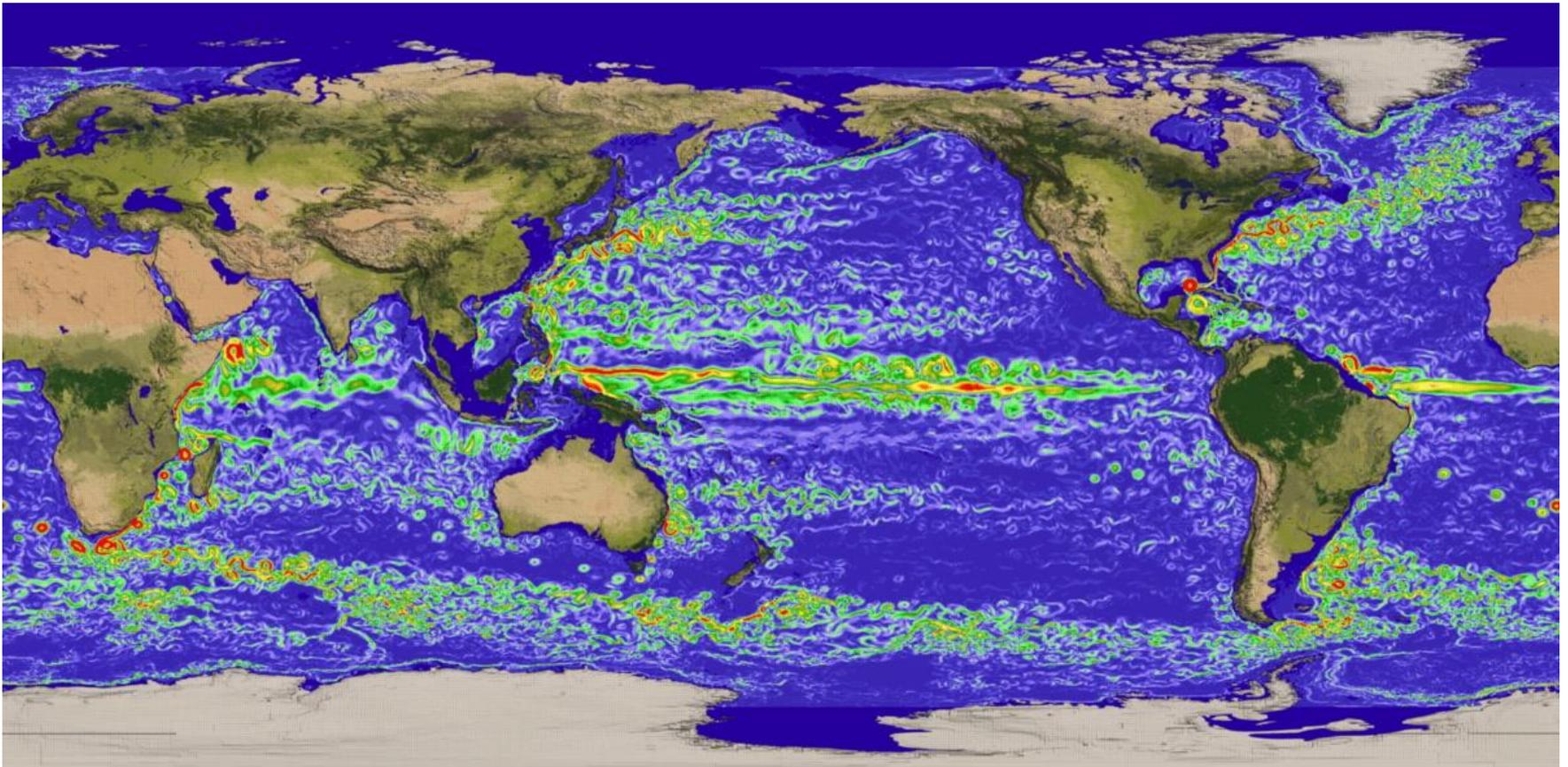


地学図表P.196

「実際の」海洋の流れ

地球シミュレータを使った計算結果

0.1 度メッシュ計算で得られた水深100mにおける流速の瞬間値
寒色ほど遅く、暖色ほど速い



潮汐

潮汐による
生じる
現象の例



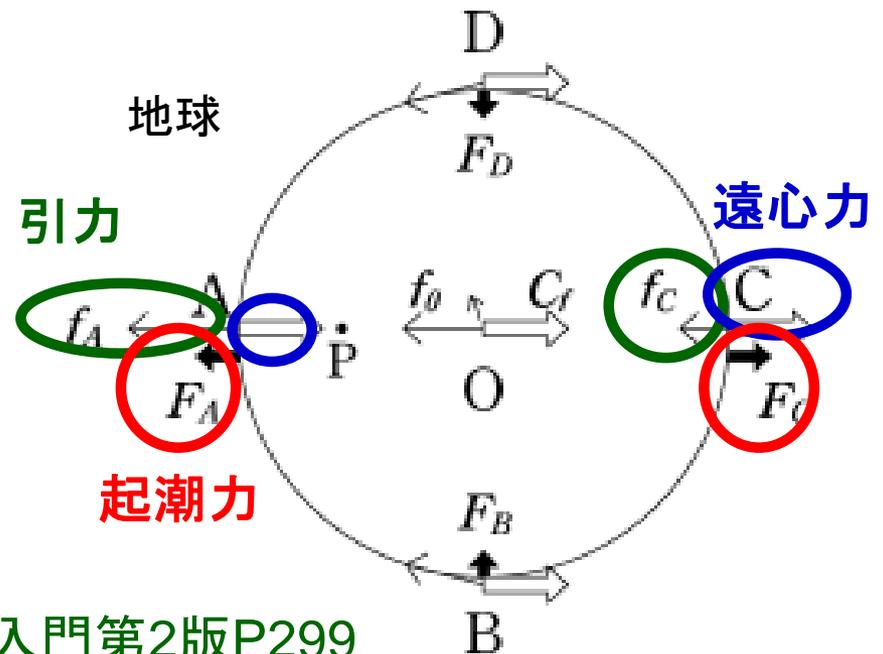
満潮



干潮

地学図表
P.199

潮汐現象
の説明



地球惑星科学入門第2版P299